

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200529		
法人名	社会福祉法人 唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所きりご		
所在地	佐賀県唐津市肥前町切木548番地1		
自己評価作成日	令和3年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年2月16日	外部評価確定日	令和4年3月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑顔あふれる楽しい我が家」を理念とし、本当の家のような親しみと安心を感じながら生活できる施設にしたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

民家や田畑が広がり、自然豊かな地域で生活されてきた高齢者にとって、心安らぐ環境の中に事業所はある。コロナ禍で外出自粛の中、窓越しで学校帰りの子供たちの声に和まされ、笑顔で声掛けしている。利用者はゆったりした時間の中で、自分のペースで暮らし、洗濯物のたたみなど率先して手伝う入居者もいる。職員は理念である「笑顔あふれるたのしい我が家」を毎日利用者とともに唱和することで、共通の認識を持ち、家庭的雰囲気を味わえるよう支援している。管理者は運営推進会議や家族からの積極的な意見を聞き、地域に根差した施設を目指している。コロナ禍が終息し、地域のすべての行事に参加できるよう心待ちにしている。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる楽しい我が家」を毎食前に利用者、職員全員で唱和し、関わりのある中で、その日の雰囲気も含め、皆で共有することを毎日大切にしながら実践している。	母体である社協の基本は別にあり、朝礼時に管理者、職員は確認している。それとは別に、事業所独自の理念が作成され、ホール内や事務所に掲示されている。1日3回毎食時に利用者と職員と一緒に唱和し、常に理念を意識しながら、共有を図り実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、クリスマス会、正月会、他施設への運動会参加、地域の美容室利用、地域の電気屋さん利用、散歩時の声掛け、あいさつなど交流は図れている。	運営推進会議などを通し、地域との関りは徐々に増えているが、地域の掃除などの参加はない。今までできていた地域との交流は、コロナ禍で現在自粛している中、地域の文化歴史で毎年恒例で行われる「いのこもち」を入居者にも楽しませたいと地域の人々が事業所を訪れて行き、入居者は喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの小学校の児童作成の大きなメッセージつきのハガキを先生方より頂いた。子供たちへの高齢者を労わる気持ちを育むよい機会になったのではと思う。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取組みを報告を行い、そこで出たアイデアなどを運営に活かしている。	8名の運営推進委員は地区の代表や市町村、家族代表から構成され、入居者の状況報告やヒヤリハット報告、また地域から行事の案内や意見の交換の場にもなっている。コロナ禍で計画通りの開催はできていないが、事業所の状況報告書を作成し、推進委員会のメンバーや市町村に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜必要時には連絡を取っている。特に運営推進会議で役員構成に市の担当者がおられるので、実情などは詳しく報告している。	運営推進会議に行政担当者の参加があり、顔見知りの為、相談しやすい関係が出来ている。施設、地区の実情等詳しく報告し、相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度の身体的拘束適正化委員会にて自分たちの支援の在り方、意識改革を行っている。職員全員で話し合うことで相互理解にもつながっている。	身体拘束の事例はない。身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施している。管理者は日頃から言葉の拘束等も気がかけており、職員の不適切な言葉かけ等に気付いた場合は、注意出来る関係性を持ち、職員と共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護、虐待防止研修など参加し理解を深め、施設にて共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と虐待防止研修を職員が参加することができている。その内容は報告会で報告し、各自理解を深めるよう周知している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項説明書の説明により、理解していただけるよう丁寧に説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入って右側に、「ご意見箱」を設置している。また、面会時には出来るだけ家族様のお話を聞けるように、時間をつくる配慮している。なるべく施設に訪問し、相談などしやすいように笑顔で対応することを心がけている。聞き取れた内容で必要があれば職員へ周知し、配慮できている。	意見箱を設置しているが、これまで投稿はない。家族と会話することを心掛け、コロナ禍でも窓越しで面談し、また毎月の便りの配布などで、利用者の近況をできるだけ詳しく伝えている。利用者、家族から出された意見は、運営会議や職員会議の中で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、管理者会議などで定期的に検討できる機会を設けている。また、「勤務評定表」にて職員の意見が反映できるようにしている。また「勤務評定表」にて職員の意見が反映できるようにしている。	管理者は毎月行われる勉強会はもとより、日頃から職員との会話を多く持つよう努めている。本部ともリモートで管理者会議が毎月行われ、管理者は職員からの要望や提案を伝える機会ととらえ、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産前産後休暇を取得している職員もいる。やりがいにつながるように、「楽しい」と思えるような雰囲気づくりには毎日努めている。継続して安心して働ける職場環境を目指し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「勤務成績評定表」等にて職員の気持ち力量を確認し、研修計画に基づき計画的に研修ができるように機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会」にて勉強や交流会に参加するようにしている。唐津市社会福祉協議会の介護施設、保育施設職員合同の研修会があるが、新型コロナウイルスの影響で出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「フェイスシート」及び「退院・退所情報記録書」の活用や、入所判定会議の情報を全職員に周知し、ご本人様の不安が少しでもなくなるよう可能な限りの範囲で要望に応じるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談及び入所申込時等に不安な事や要望に応じるために聞き取り、傾聴をしている。なるべく話しやすい雰囲気になるよう笑顔での接客を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として支援可能な事、支援困難と思われることは、説明をその都度行うようにしている。その中で家族様の意見も尊重できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ることは自分です」を実践し、職員は一部介助を心掛けている。 洗濯物を畳んだり掛けたり洋服を着たり、見守りの中、自由にされている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人様と家族様の話された内容なども家族様から聞いてみることもあり、施設と家族様で会話の内容も違うこともあるので、いろいろな部分を見れるように見守っている。新型コロナウイルスの影響で基本的に窓越しの面会を実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の利用の支援やご家族様、友人様の面会を通し、良好な関係の支援行っているが、限られた利用者に偏りがあり不十分な面あり新型コロナウイルスの影響もあり、今現在は出張型の床屋さんをお願いし、施設にてカットして頂いている。	コロナ禍で家族以外の友人知人との交流はできていない。天気が良い日に散歩を兼ねて道路を挟んだ向かいの商店に買い物に行き、お菓子を食しながら、職員と会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性などに配慮し、適度な距離を大切にしている。出来る限り自由に意向の尊重をすることを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前に利用をして頂いていたご家族様から、今でも新聞紙を定期的に頂いており、コミュニケーションを取っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常日頃、利用者様から聞き取りの中でのなるべく意向をくみ取るように支援している。把握が困難な方へは、ご家族様のご意向や医師の意見等も参考にしている。	職員は入居者の会話や行動、表情からくみとり把握している。買い物の際に、自分で支払いを希望される利用者には、個人預り金から少額を手持ち、店主と交流しながら支払いもしてもらっている。把握が困難な利用者には家族への聞き取りや、本人の意向を汲み取り支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「フェイスシート」等の入所時の情報や本人様との会話、面会時のご家族様からの情報により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者様の一人ひとりの心身状況を観察し、状態の変化等は申し送りなどで、職員間で共有している。また、必要に応じて主治医に情報を伝え、指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時は、本人様、職員との面談を行っている。また、必要に応じて主治医からの意見を受け、ご家族様に連絡、要望等の確認を行い、介護計画に作成に取り組んでいる。	月1回の職員会議の時にモニタリングを実施し、状況確認をしている。職員の気づきや利用者の状態の変化は、個々のケア記録に記載して、職員間の情報の共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員が毎月評価する「介護サービス計画書評価表」を確認して、介護計画書の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分たちが出来る範囲のことはなんで取り組んでいきたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後も運営推進会議の情報、意見等を上手に活用し、よりよい支援を目指したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時対応など、協力医療機関へ電話相談を行い、連携を図っている。また、主治医の指示により、他科受診が必要な場合には、紹介状を持参して適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に確認し、全員が事業所の協力医を望まれ、専門医受診以外は往診である。専門医の受診は事業所で行い、家族への報告は細かく行うようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度は看護師の雇用ができており、週に1~2回程度の出勤がある。かかりつけの病院の看護師、医師と密に連絡を取れている状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「入院時情報提供書」「救カード」の活用、担当看護職員及びソーシャルワーカーとの情報交換を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約の際に「急変時及び終末期における医療や介護における指針」を聞き取り、契約段階での意思を確認している。	これまでに看取りの経験はない。重度化に伴う意思確認を行い、事業所ができる最大ケアについて説明を行い、医療度が高く重度化した場合は、主治医の指示により医療施設との連携を図っている。今後は重度化や終末期に向けた支援ができる環境を整え、本人や家族の意向を踏まえた支援ができるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が定期的に行えていないため、今後は定期的に訓練を行いたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対しての訓練は9月、3月には地域の方の協力を受けて訓練を実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響にて集合訓練行うかは現在検討中である。地震、災害については実施できていないので、今後検討が必要である。	消防署、地域消防団、運営推進委員、職員参加により年2回、日中に夜間想定訓練を行っていたが、コロナ禍で今年度は消防署の参加はなく、事業所のみで入居者とともに火災避難訓練を行った。職員は消火器の取り扱い訓練も実施した。災害に備えての備蓄も、消費期限のため現在交換を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の気持ちで利用書様を中心に考えられるよう精進している。	個人情報の取り扱いは入居契約時十分な説明を行っている。グループホームたよりに使用する写真等について、本人家族に了承を得、署名捺印を受けている。一人一人の人格を尊重し、排泄時や入浴時の声かけ等には、特に気を付けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行うときなどは、利用者の思いも確認し、希望や自己決定を尊重し、支援できるように心がけ、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は概ね決まってはいるが、臨機応変に対応することを心がけ、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類交換は本人が着たいと思う洋服を着て頂いている。あきらかに寒い、暑いと思われる場合にのみ説明し、増やしたり減らしたり一部を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜については外注(昼食・夕食)で、施設職員が利用者様一人ひとりに応じた食事形態で提供している。朝食と日祝日については、施設職員が調達しているので、食べたい物を聞いたり、調理の下準備(野菜を切る)や、食事をつぎわけてもらったりして、利用者様に出来る事はして頂いている。	配達されるレストランの食事は、職員が入居者それぞれの食事形態にして提供している。食器も彩りよく盛り付けにも配慮が伺える。休日の食事は利用者の要望を聞きながら一緒に食事の準備を行い、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注により栄養バランス、摂取量共に一人ひとりに応じた食事が提供出来ている。水分摂取については、声掛けしながら十分に摂取できるよう心掛けている。お茶だけではなく、他の飲み物を提供したりして、飲み残しのないように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを利用者の能力に応じて行っている。また、入れ歯使用の方については、入れ歯洗浄剤を活用している。今年度は12月に歯の健康診断を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間紙オムツ利用者については、排泄パターンを把握し、定時間での声掛け誘導を行い、トイレでの排泄ができるようにしている。	排泄チェック表にて排泄間隔の把握に努め、トイレ介助を行っている。自力排泄可能な方でも安全に排泄出来るよう遠目の見守りを行っている。転倒のリスクがある方には、足元センサーを使用し、夜間もトイレ介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヨーグルトを提供したり、こまめな水分摂取の声掛けや、飲み物の工夫などを行い、対応している。毎日の体操や定期的な散歩なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には曜日や時間帯などを決めていますが、その時の利用者の体調や気持ちに応じるように対応している。	毎日入浴できる体制ではあるが、週2回から3回が基本である。本人の気分や体調にあわせて対応している。また入浴しない日は足浴を必ず行い、入居者の安眠にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状況や体調などに応じて支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な往診や利用者様の状態を主治医に報告し、指示のもとに、処方された処方薬を説明書にて、目的や用法、用量を再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内に小さなお花畑を作っており、水まきや毎日の洗濯物干し、外で体操、歌、風船バレー、ひなたぼっこなどを行い、気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は少ないが、天気の良い時には散歩に出かけたり、季節の花が咲いた時にはドライブに出かけたりしている。以前は家族様が数時間家に連れて帰られることもあったが、今現在は新型コロナウイルスの影響受け、実施できていない。	コロナ禍で外出の回数は減っているが、天候を見ながら近所の店まで散歩したり、施設の車でドライブに出かけることもある。11月には、「納所の公園」にドライブに出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の利用者様が少額を所持されており、理容室代を払ったり、使えるように支援している。また家族様より預かっている少額のお金により臨機応変に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話されることはあまりないが、電話をしてほしいとの要望があれば電話をかけ取り次いだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、利用者様はリビングや椅子、ソファなどに座り、自分のペースで休憩したり、テレビを鑑賞されたりしながら、思いおもいの時間を過ごされている。季節感が分かりやすいように壁に飾りつけなど行い、工夫をしている。	ホールは明るく静かである。ソファとテーブルがあり、思い思いに過ごされている。コロナ禍でテーブルなどの消毒も確実にしている。空気清浄機や加湿器が整備され、換気の配慮も行われている。壁の掲示物は季節を感じるものが掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広くはないが、自分の場所として過ごす場所は各個人で持たれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット及びチェストは施設で設置しているが、他の者については使い慣れた私物を使用されている。ご家族の写真を貼ったりして、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	自宅の延長線を考慮した居室を心掛けている。居室には備え付けのクローゼットがあり、衣類の整理もできている。寝具類の持ち込みがあり、シーツ、布団カバー類は担当職員が定期的に交換している。居室には家族の写真が飾られ、自室と認識されるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活環境には十分配慮し、臨機応変に整備を行っていきたいと考えている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない